

# 軽トラック市出店参加促進による市内商店街活性化事業について

島根県 雲南市 産業振興部 商工観光課

## ●はじめに

島根県雲南市は、人口約4万3千人、総面積は553.4km<sup>2</sup>で、島根県の東部に位置し、北部は松江市、出雲市に、南部は広島県に接しています。古くから山陰と山陽を結ぶ交通の要所として栄えてきました。

市内には古事記に記されたスサノオノミコトによるヤマタノオロチ退治で知られる斐伊川が流れ、各地に神話や伝説が残るほか、一箇所からとしては全国一の39個の銅鐸が出土した「加茂岩倉遺跡」や国の重要有形民俗文化財に指定された永代たたら製の製鉄遺構「菅谷たたら高殿」が唯一現存しており、豊かな自然と歴史的文化遺産に恵まれています。



写真1 海潮神代神楽「籬の川大蛇退治」



写真2 加茂岩倉遺跡、銅鐸

一方で雲南市では、中国横断自動車道尾道松江線の整備が進みつつあり、今まで直結する高速移動手段のなかった島根県東部～広島が結ばれ、今後、様々な経済効果や交流人口の増加・活性化が期待されることから、将来を見据えた地場産業の振興、新産業の創出、企業誘致の推進、地域資源を活用した観光商品の開発や情報発信に取り組んでいます。

その一つとして県が認定する「しまね版特区」制度を活用し、平成21年11月から市内商店街の活性化

を目的とした軽トラック市「うなんまめなカー市」の開催を雲南市商工会と連携し取り組んでおりますので、その内容について紹介させていただきます。



写真3 菅谷たたら高殿と桂の芽吹き

## ● 取り組みへの経緯と課題

雲南市では、国道54号等幹線道路沿線において商業集積や商業環境が充実し、小売業の中心地となっている地域がある一方で、近隣住民の買い物の場として貴重な役割を担っている既存の商店街は、店舗の老朽化や郊外への転出、後継者がいないなど理由から店舗の減少がすすみ、かつての賑わいがなくなりつつあります。

こうした状況から雲南市商工会では地域商業の活性化に繋がる年間を通じたイベントを市内事業者が中心となって実現できたらと考え、商店街を歩行者天国にし、軽トラックを店舗に見立てて市内特産品などを販売する市場「うなんまめなカー市」の開催を計画しました。

すでに県外では成功事例があり、先進開催地の視察や資料提供を受け、実施に向けた準備を進めていましたが、道路使用許可申請についての課題が持ち上がりました。

道路上で軽トラック市を開催する際に、出店者ごとに道路使用許可申請が必要なこと、またその申請者ごとに手数料の納付が必要であり、軽トラック市を市内どの商店街でも開催可能な継続事業とするためには、経費的にも事務的にも大きな負担となります。

## ● しまね版特区制度の活用

そこで雲南市商工会では、軽トラック市を継続開催することによって商店街の活性化や賑わいづくり、地産地消の推進、情報発信、新規創業機会の創出など多面的な事業効果を目指す上で、出店者の負担を軽減し、多くの事業者の出店を促すことは大きな意味があると考え、「しまね版特区」制度を活用することにしました。

この制度は、島根県が地域で取り組まれている活性化を図るための構想や事業について各種規制等を見直したり、一部地域で緩和するなどの「特例措置」を設けることにより、地域の多様な取り組みを支援するものです。

雲南市商工会の特区申請は、一体的な事業であることや、出店者からの参加費をエコ活動推進事業等に充当すること、雲南市など公的関連ブース出店等により事業の公益性が認められ、道路使用許可申請手数料の免除と雲南市商工会による包括一件申請が可能となりました。

これにより出店者は運営費負担として1回につき2,000円の参加費のみで出店が可能となり、出店促進が図られたほか、手続き上の簡素化、一体的な軽トラック市の運営が実現できるようになりました。



## ●地域活性化の具体的な効果

軽トラック市「うなんまめなカー市」はこれまで12回開催し、1回3時間の開催で来場者が4千人を超えることもあります。開催地の商店街は大きな賑わいを見せ、市内事業者や市民からは商店街に30年前の賑わいが戻ったという声や、継続開催を望む声が多く寄せられています。

また、出店者の中には異業種参入や開発商品のPRやテスト販売の実施、新たに移動販売車での営業を始める事業者も見られるようになりました。

今年の1月には広島市で開催された「島根ふるさとフェア」に県外としては初めて出張軽トラック市を2日間にわたって行い、こちらでも好評を得ることが出来ました。

## ●まとめ

「しまね版特区」制度は、従来からある一律の規制を地域の在り方や取り組みに沿ったものにしていくために適した制度で、今回、軽トラック市を開始するにあたり大きな後押しとなりました。

現在、雲南市商工会と市では観光や食の視点からの取り組みも進めているところです。こうした成果を取り入れつつ、軽トラック市が名物イベントとして定着するよう、また地域商業機能維持やさらなる交流人口の拡大、地域の新たな取り組みや課題解決に繋がることを目指しています。



写真4 平成22年6月6日三刀屋町開催



写真5 吉田野球スポーツ少年団の職業体験



写真6 出店者の様子